

親子ちゃれんじ③ ～むしむしキャンプ～

1 趣 旨：地域の子育て支援として、幼児に関わる保護者の緩やかなコミュニティを創る。

親子で夢中になる機会を通して、お互いに楽しむ時間の大切さを感じる。

2 日 時：令和元年9月21日（土）13:00～9月22日（日）10:00

3 場 所：国立淡路青少年交流の家

4 対 象：子どもとその保護者 25組、100名程度

5 参加者：28家族87名（保護者43名、子ども44名）

6 講 師：NPO法人こどもとむしの会 吉岡朋子氏 他7名



7 プログラムの内容

9月21日（土）13:45 虫とりに挑戦！

開会式で事業内容の説明やスタッフの紹介などを終えた後、講師の先生方から虫の捕り方のレクチャーを受けた。空を飛ぶ虫、地面を這う虫など、種類によって網の使い方が違うことに、子どもはもちろん、親も感心している様子であった。

レクチャーが終わると、待ってましたと言わんばかりに、虫かごや虫捕り網を携え、親子で虫とりに奔走していた。普段は「バッタ」としか呼んでいない虫も、講師の先生方から「ヤマトマダラバッタだよ。実は珍しい虫なんだ。」「後ろ脚が青い色をしているよ。」と詳しい名前や特徴を教えてくださいました。自分で捕まえた虫だからこそ、興味を持ち大事に思えるのはもちろんのこと、詳しい名前や特徴を聞くことで、なお一層大事さが増したようだった。



9月21日（土）15:00 テント泊に挑戦！

テント泊組は虫捕りをいったん止めて、テントの設営に取り掛かった。雨の予報もあり、テント泊組は屋外ではなく講堂にテントを立てた。「虫の声を聞きながら泊まれないのは残念。」という声もあったが、「初めてのテント泊なので、部屋の中は安心です。」という声も聞かれた。スタッフのテント設営のレクチャーを受けて、家族で協力し、スムーズにテントを立てることができた。親子で共通の作業をすることを通して、より家族の絆が深まったように思う。

テントを立て終わると、早速テントに入りゴロゴロと楽しそうに寝転んでいたが、虫とりのために再び外に駆け出す家族が多かった。



9月21日(土) 20:00 「むしのおえかき」

日が落ちて、虫の鳴き声が聞こえはじめたころ、野外炊飯場で「むしのおえかき」に挑戦した。自分たちが捕まえた虫の中から、気に入った虫を選び、よく観察し画用紙に描くというプログラムだが、子ども達の熱心な様子に感心した。虫とりのプログラムが充実していたからか、描きたい気持ちがあふれ何枚も新しい画用紙に描きたい虫を描き表していた。描きながら、絵の説明をし、この日の活動をふりかえっている家族もあった。

せっかくの夜の野外炊飯場ということもあり、描き終わった家族から、夜の虫観察も実施した。講師の先生方が準備して下さった光を使ったトラップには、無数の虫が集まり、普段できない夜の虫観察に子どもも大人も興奮気味であった。講師の先生が、足元に止まっていた虫を、そっとみんなに踏まれない位置に移動させていた姿を見て、足元に気を付けて歩く子ども達の姿が印象的であった。



9月22日(日) 9:30 閉会式

台風の影響もあり、2日目は予定を前倒しし、閉会式をして解散というスケジュールに変更した。参加者の中には、起床後すぐに施設内や吹上浜で虫とりをしている家族もいた。

閉会式では、虫の絵を返却したり、講師の先生からの挨拶があったりした。終了後も「また虫とりしようね。」や「来年も一緒に参加しよう。」など、再会を約束し合う家族もあり、家族間のコミュニティもできている様子であった。



今回の事業で確認した虫の種類

確認された昆虫・・・・・・・・61種

確認された全ての生き物・・・・73種



8 参加者の声

- 虫を捕まえるだけでなく、名前や特徴を教えてもらえてよかったです。
- 一生懸命に虫を捕まえている姿を見て、子どもの虫に対する気持ちが変わったように思います。
- 夜に虫とりをするのが初めてだったので、満足した。
- テントの設営を子どもと一緒にできて良かった。

9 所感

台風の影響で、日程を短縮したり、テント設営場所を屋内にしたりと予定を変更することがあった。講師の先生方には、屋外での活動ができなかった時に備えて多くの虫を持参いただいていたが、幸いにも雨は降らず、屋外での虫とりや虫の観察ができた。

事業全体としては、虫とりと「むしのおえかき」を通して、親子が夢中になる機会を作り出すことができた。また、親子共に虫が苦手だったが、参加してみると意外と虫とりを楽しめたという参加者もいた。このように、親子で何かに挑戦することによって、新たな一面に気付いていただけたことは大きな成果と考える。

テント設営や撤収などを通して、家族内で協力する場面や家族間でお互いに手伝い合ったり、対話をしたりする場面が見られた。また、テント泊だけではなく、宿舎も準備していたことによって、テント設営が難しいと感じる方にも安心して参加していただくことができた。

参加者同士で、「また会いましたね。」「次の親子ちゃれんじはどうしますか。」などと話されていることもあり、家族間のコミュニティが広がっていることを感じる。引き続き親子ちゃれんじを実施し、さらにコミュニティを広げられればと考える。